

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 4日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320164

研究課題名（和文）「社会的なもの」の再構築：多様性と可能性の人類学的研究

研究課題名（英文）Reconstructing the ‘Social’  
—Anthropological Research on Diversities and Possibilities—

研究代表者

春日 直樹（KASUGA NAOKI）

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：60142668

研究成果の概要（和文）：本研究は「社会的なもの」の構築過程をラディカルに再検討して、社会的なものと同自然的なものを同一水準で論じる方法を探求した。「社会」と「自然」が概念と実在としていかに一緒に構築されていくのかを問い、因襲的な二分法を超えるような諸関係と状況について、またそうした状況下でさまざまな存在がいかに生成するかについて、明らかにした。本研究は最終的に、人類学・科学技術研究・科学史・哲学が融合する次元を提供し、それによってあらたな実在の可能性と生成に寄与することを目指した。

研究成果の概要（英文）：By radically rethinking ‘the social’, our project explored the way the social can be symmetrically discussed with the natural. We have been questioning how ‘society’ and ‘nature’ are constructed together, and seeking out both the proper state of the various relations that transcend this dichotomy and the emergence of various beings. In fine, this project aimed to offer a niveau where anthropology, science and technology studies, the history of science, and philosophy can mingle, with the goal of contributing to the possibility and emergence of a new reality.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2011年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2012年度	1,500,000	450,000	1,950,000
総計	14,000,000	4,200,000	18,200,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：社会と自然の二分法、分離融合、科学人類学

### 1. 研究開始当初の背景

現代の欧米・日本では事象の認識をめぐる「個人化」や「心理学化」が進行し、「社会」という概念の有効性が問われている。社会科学者の間にはこの概念の再検討とあらたな社会関係の呈示が試みられつつあるが、ほとんどが事象の一面に光を当てるとどまり、近代西洋に限定された議論の域を出ていない。文化人類学は多種多様な事象に

対して、伝統・近代、西洋・非西洋、社会・自然といった区分にとらわれることない理解をめざす学問であり、この学問の姿勢を貫いて世界各地に生起する種々な「社会的なもの」をホーリスティックに考察する必要がある、「社会的であること」の多様性と可能性を探究することが求められている。

### 2. 研究の目的

(1) 「社会」の特殊西洋的な意味合いの解明。  
西洋近代化の歴史において、「社会」は経済や法、政治などから差異化された領域として立ち上がってきた。この特殊歴史的な概念を、非西洋の人々の集合的な生のあり方と照らし合わせて明らかにする。

(2) 「社会」概念の妥当性の検討。

「社会」の概念は国民国家をモデルにしており、一定の地理的な範囲の中に居住し、かつ共通の属性を持つ人々の集団を含蓄する。だが、現実には集団の境界と地理的境界は一致せず、人々は絶え間なく移動を繰り返してきた。さらに、グローバル化が進む中で社会の概念が前提としてきた国民国家の枠組み自体が揺らいでいる。

(3) 「社会」による非人間的な要素の排除の反省。  
人間の集合として捉えられてきた「社会」だが、実際は道路、自動車、文書、建物、家畜、微生物、薬剤といったさまざまな非人間的な要素によって支えられている。人類学者は近年この事実に着目しながら、科学技術やアートに関する研究を展開しつつある。この考えを発展させて、非人間的要素を含めて「社会的なもの」の生成を検討する。

(4) 人々の「集合的な生のあり方」の再検討。  
ヒトとモノとがどのように集合的な生を構成しつづけるか、という観点から「社会的なもの」の生成を根底的に描き直す。

### 3. 研究の方法

本研究の代表者と分担者は、中米、フィジー、東インドネシア、東アフリカ、インド、ガーナ、タイの各地における集合的な生のあり方について、以下の三つの観点から相互比較をつうじて明らかにし、「社会的なもの」の顕現する形態をあたらしく提示しようとした。

(1) 「社会」という概念を成り立たせてしまう諸条件の分析。

「社会」領域の生成と国民国家の整備は欧米や日本ではパラレルな進展をみせたが、世界の他地域においてどのような状況にあるのかを、本研究によって明らかにする。さらに、国民国家の依拠する「主体」としての個人、「人格」の所有者としての個人について、その妥当性を検討する。

(2) 「社会的なもの」の再記述と分析。

季節労働者、帰還民、機械工、老人ホームの入居者、開拓移民などを調査し、人々の諸実践を「集団」の規定を受けた帰結としてではなく「社会的

なもの」の生成の現場として描き直す。彼らの諸実践をシステムや構造の拘束から自由度を高めた水準で観察し、人と人の関係のコード化、脱コード化、再コード化がどのように進行するのかを丹念に追いかける。それによって、集合的な生に関するダイナミックで過程的な様態を明らかにし、人と人のつながりの多様な在り方の記述と分析を提示する。

### 4. 研究成果

(1) ポストANTの提示

4回の研究会、2回の国際シンポジウム開催を経て、本研究の目的を達するには Bruno Latour らの主導するANT(アクターネットワーク理論)を越えた視点と手法を開拓することが明らかになった。

①ヒト、モノ、情報などにエージェンシーを付与してネットワーク生成を描くだけでなく、そこにどのような権力が発生するかを検討しなければいけない。

②当事者たちの思考や言説を重視することを忘れてはならない。彼らの視点をネットワークの議論に織り込む必要がある。

(2) 存在論的アプローチの提示

Viveiros de Castro らの唱道する「認識論から存在論へ」は、両概念をめぐる議論を整理することによって真価を発揮する。ただし存在論への移行は、人類学がこれまで「自然」領域としてハードサイエンスに委ねてきた諸論題を、あらたに引き受けなければいけないことを意味する。

(3) 文理融合の可能性の検討

「社会」に対する「環境」として研究対象の外部に据えられてきた「自然」は、ANTによって社会とともに生成変化するものとなった。本研究はここからさらに、「環境」と積極的に関わる科学技術の人々の思考様式に対して、直接に焦点を当てる必要を明らかにした。それゆえ、(西洋近代の)科学技術の知識の内側へと踏み込まなければならない[言い方を変えると、論文の生産を論じるのではなく、論文の中味をも論じなければいけない]。それは文理融合の実践であり、本研究はこの実践への方向性を示すことができた。以上の研究成果は、2冊の英語論文集として公開されている。

<http://www.natureculture.sakura.ne.jp>

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 26 件)

①Mohacsi Gergely and Morita Atsuro,

Traveling Comparisons: Ethnographic Reflections on Science and Technology, East Asian Science, Technology and Society, 査読有、7巻2号、2013、ページ未定(掲載確定)。

②春日直樹、「生権力の外部：現代人類学をつうじて考える」、思想、査読無、1066巻、2013、227-243。

③Nakagawa, Osamu, The Morality of Illegal Practice: French Farmers' Conceptions of Globalization, SENRI ETHNOLOGICAL STUDIES, 査読有、81巻、2013、99-111。

④田辺明生、「近代インドとイスラーム世界——分離独立をめぐる代表政治とトランスナショナルな民衆運動」、南アジアとイスラーム、査読無、2013、37-50。

⑤Morita, Atsuro & Casper Jensen, Japanese Anthropology and the "Turn to Ontology": An Introduction, HAU: Journal of Ethnographic Theory, 査読有、2巻2号、2012、358-370。

⑥Kasuga, Naoki, Total Social Fact: Structuring, Partially Connecting, and Reassembling, Revue du MAUSS, 査読有、No. 36、2010、101-110。

⑦Kasuga, Naoki, Vision that Ushers Humanity, Nature Culture, 査読無、1巻、2012、69-87。

⑧Ishii, Miho, Acting with things: Self-poiesis, actuality, and contingency in the formation of divine worlds, HAU: Journal of Ethnographic Theory, 査読有、2巻2号、2012、71-88。

⑨中川敏、失敗した比較——監査と類化、国立民族学博物館調査報告、査読有、Vol. 90、2010、227-246。

⑩Nakagawa, Satoshi, Review of Expressive Genres and Historical Change, Anthropological Forum, 査読有、Vol. 20(1)、2010、99-100。

⑪栗本英世、アフリカにおける紛争と平和への展望——北東アフリカを中心に、国際問題、査読有、5月号、2010、28-39。

⑫石井美保、神霊との交換—南インドのブータ祭祀における慣習的制度、近代法、社会的エイジェンシー、文化人類学、査読有、75巻1号、2010、1-26。

⑬Kurimoto, Eisei, Changing Identifications among the Pari Refugees in Kakuma, Changing Identifications and Alliances in Northeast Africa (Sudan, Uganda and the Ethio-udan Borderlands) In G. Schlee and E. Watsoneds, New York: Berghahn Books, 査読有、Volume3、2009、219-233。

⑭田辺明生、植民地期インド・オリッサにおける社会変容：歴史人類学的検討、人文学報、

査読有、第98号、2009、1-79。

[学会発表] (計35件)

①Kurimoto, Eisei, "Internal Enemies and a Segmentary State: Political Dynamism of the Pari", Workshop "Inter-related Conflicts in a North-Eastern African Border Region" (招待講演)、February 14, 2013, Max Planck Institute for Social Anthropology, Halle, Germany。

②石井美保、「開発と神霊—南インドのブータ祭祀における野生、機械、環境ネットワーク」、日本文化人類学会第46回研究大会、2012年6月23日、広島大学(広島県)。

③中川理、「市場の〈遅れ〉—フランスの青果市場の事例」、日本文化人類学会第46回研究大会、2012年6月23日、広島大学(広島県)。

④Tanabe, Akio, "Politics of Relations: Glocal Networks of Development and Livelihood in Orissa", INDAS international workshop on "Vernacular Public Arena and Democratic Transformation in India", October 5, 2012, Kyoto University, Japan。

⑤Nakagawa, Satoshi, How to Count Pigs in Ende (Knowledge and Value in a Globalizing World), The International Union of Anthro-pological and Ethnological Sciences (IUAES)/The Australian Anthropological Society (AAS)/Association of Social Anthropologists of Aoteroa-New Zealand (ASAANZ) Conference, July 7, 2011、University of Western Australia, Perth、Australia。

⑥Kasuga, Naoki, Vision that Ushers in Humanity, International Conference "The Human and the Social", December 7, 2010、如水会館(東京都)。

⑦Kurimoto, Eisei, Limits of Humanitarianism during and Post-war Periods: The Growing Gap between Cosmopolitan and Local Orientations in Southern Sudan, Osaka University Forum "Globalization and Conflict: Entanglement between Local and Cosmopolitan Orientations", September 28, 2010, University of Groningen, Netherlands。

⑧Tanabe, Akio, Vernacular Democracy and Circumfluent Economy in Contemporary India, American Anthropological Association 109th Annual Meeting, November 17, 2010, Sheraton and New Orleans Marriott Hotels, New Orleans, Louisiana, U.S。

⑨Morita, Atsuro, Ethnographic Machine: An Experiment in Postplural Anthropology, Design of Organization and IT workshop (招

待講演)、April 16, 2010、IT University of Copenhagen, Denmark。

⑩Morita, Atsuro, Ethnographic Machine: An Anthropological Experiment toward Performative STS, Seminar organized by Project on the future of the human beings in the age of bio-sciences (招待講演)、November 14, 2010、大阪大学 (大阪府)。

⑪Kasuga, Naoki, Total Social Fact: Structuring, Partially Connecting, and Reassembling, International conference "Mauss vivant, 13-20 Juin, 2009、Cerisy-la-Salle, France。

⑫Kasuga, Naoki, Toward the Science of Human-Nature, International symposium on the Future of Anthropology, December 7, 2009, Kyoto University。

⑬Koizumi, Junji, Globalization, Appropriation and Conflict, German Anthropological Association, September 30-October 3, 2009, Frankfurt am Main, Germany。

⑭Koizumi, Junji, Linking Anthropologies and Beyond, The 16<sup>th</sup> World Congress of IUAES, 27-31 July, 2009, Kunming, China。

⑮Koizumi, Junji, The Uses of "Development in Japan's Foreign Policy and the Role of Universities, International Conference "Re-framing Development", April 9, 2009, Osaka University。

[図書] (計 26 件)

①Kasuga, Naoki, Stanford University Press, Hope in the Economy, Swedberg, R. and M. Miyazaki (eds), (Kasuga, Naoki, Hope between Inside and Outside: 'Freeters' in Japan), 2013, forthcoming。

②Tanabe, Akio, Manohar Publishers & Distributors, "King, Goddesses and Jagannath: Regional Patriotism and Sub-regional and Local Identities in Early Modern Orissa" In Georg Berkemer and Hermann Kulke eds. Centres Out There? Facets of Subregional Identities in Orissa, India, 2012, 434 (227-253)。

③森田敦郎、世界思想社、『野生のエンジニアリング：タイ中小工業における人とモノの人類学』、2012、268。

④春日直樹、世界思想社、『現実批判の人類学——新世代のエスノグラフィへ』、2011、320。

⑤田辺明生 (共編)、世界思想社、南アジア社会を学ぶ人のために、2010、309。

⑥石井美保 (共編著)、春風社、「呪物をつくる、世界をつくる——呪術の行為遂行性と創発性」花潤馨也・石井美保・吉田匡興編『宗教の人類学』、2010、273 (159-179)。

⑦中川敏、世界思想社、『言語ゲームが世界を創る：人類学と科学』、2009、238。

⑧栗本英世、世界思想社、『「先住民」とはだれか』窪田幸子、野林厚志編、(栗本英世「先住性が政治化される時：エチオピア西部ガンベラ地方におけるエスニックな紛争」)、2009、362(202-223)。

⑨栗本英世、山川出版社、『アフリカ史』(新版世界各国史 10)、川田順造編、(栗本英世「国民国家と政治社会の未来」(討論)川田順造、栗本英世、武内進一、永原陽子、真島一郎)、2009、624(463-527)。

[その他]

ホームページ等

NatureCulture

<http://www.natureculture.sakura.ne.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

春日 直樹 (KASUGA NAOKI)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：60142668

### (2) 研究分担者

小泉 潤二 (KOIZUMI JUNJI)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：10153454

中川 敏 (NAKAGAWA SATOSHI)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：60175487

栗本 英世 (KURIMOTO EISEI)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：10192569

田辺 明生 (TANABE AKIO)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：30262215

石井 美保 (ISII MIHO)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：40432059

森田 敦郎 (MORITA ATURO)

大阪大学・人間科学研究所・准教授

研究者番号：20436596

中川 理 (NAKAGAWA OSAMU)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：30402986